

令和2年度 安楽川小学校 学校評価報告書

| | | | | | |
|------|--------------------------------|-----|-------------|-----|------|
| 教育目標 | 人権尊重の精神を基盤に、知徳体の調和のとれた児童の育成を図る | 学校名 | 紀の川市立安楽川小学校 | 校長名 | 原 寿宏 |
|------|--------------------------------|-----|-------------|-----|------|

| | | | | |
|--------|-----------|--------|---------------------|--|
| 目指す学校像 | 地域と共に歩む学校 | 目指す児童像 | 「強く、正しく、仲よく」を体現する児童 | 夢と希望をもち自ら進んで学習する子供、自分も友達も大切にし思いやりのある子供、心身ともにたくましくねばり強く挑戦する子供 |
|--------|-----------|--------|---------------------|--|

| | | | | | |
|--------|---|-----|---|------------------|---|
| 本年度の目標 | 1 知:「確かな学力」の定着・向上 | 達成度 | A | 十分達成した(80%以上) | 学校評価の結果と改善方策の公表方法 学校ホームページで公表 校報「絆(きずな)」で周知 |
| | 2 徳:「豊かな心」の育成 (自分も他の人も大切にできる心の育成) | | B | 概ね達成した(70%以上) | |
| | 3 体:「健やかな体」の育成 (体力・運動能力の向上、運動習慣の定着) | | C | あまり十分ではない(60%以上) | |
| | 4 地域と共に歩む学校づくり(みんなであつくるみんなの安小/コミュニティ・スクールの推進) | | D | 不十分である(60%未満) | |

| 自 己 評 価 | | | | | | 学校関係者評価 | | | |
|---------|-------|---|---|--|--|---|--------------|--|--|
| 重点目標 | | | 年度評価 (令和3年2月25日現在) | | | 令和3年3月11日 実施 | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的な取組 | 評価指標 | 評価項目の達成状況 (数値は2学期末) | 達成度 | 次年度への改善とその方法 | 意見・要望・評価等 | |
| 1 | 知 | これまで平成26年度から、国語科を中心に「自分の考えをもち、言葉で伝えようとする子供の育成」を目指し、「聴いて、考えて、つなげる授業」づくりに取り組んできた。その結果、児童の聴く力の向上や話すことへの抵抗感の低減には一定の成果は見られるようになった。しかしながら、自分が発言することに精一杯で、発言をもとに考えを交流し、思考を深めていくような、つないで考える「学び合い」にまでは高まっておらず課題が残っている。また、全国学力調査における国語科の正答率についても、多少の改善傾向が見られるものの、全国平均や県平均を若干下回る状況にある。 | 下記調査の該当項目 (別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート | ①基礎基本の定着(朝学、補充学習、家庭学習等での復習の徹底) ②弱点の分析・指導方法の工夫改善 ③子供の理解に即した学習指導 | ①「たくさん読んで賞」(年間20人以上) ①② 左記調査(保護者)「授業が楽しく分りやすいと言っている(A)」、「習った漢字を書いたり計算をしりしている(B)」の4及び3評価合計が90%以上、「家庭学習の習慣を身につけている(C)」の4及び3評価合計が80%以上 ③ 左記児童アンケートで、「学習」に該当する全項目(1~5)(A)の4及び3評価合計の平均が85%以上、「国語(B)・算数(C)・理科(D)の授業がよく分かる」の割合が90%以上 ①②③ 各種学力調査で全国・県平均を上回る。 ◆左記調査(教員)の「知」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上 | ①25人【2月16日現在/1年生除く】 ①② A:90.8% B:93.5% C:69.6% ③ A:1学期85.9%・2学期87.8% B:1学期92.5%・2学期94.7% C:1学期96.1%・2学期91.2% D:1学期96.7%・2学期95.2% ①②③ 全国学調の県サンプル調査との比較では、国語で5ポイント上回り、算数で12ポイント下回った。なお、国語の「書く能力」が、県平均を上回るもの「話す・聞く能力」「読む能力」に比べ10ポイント以上低かった。県調査は4・5年生共全国・県で県平均を下回った。理科(5年)は3ポイント上回った。 ◆「1 確かな学力の定着・向上」:93.2% | C | 全国学調・県学調いずれにおいても芳し結果とは言いがたく、基礎基本の定着を徹底していく必要がある。そのため、「安小タイム」の内容充実(目的をもった課題の反復練習・答え合わせと解説)を徹底するとともに、補充学習に努める。また、新たに導入されるタブレット端末を有効に活用し、児童が自主的に学習していく習慣付けを行う。加えて、引き続き、国語科を中心に、「論理的思考力」の向上をテーマに授業改善に取り組んでいく。 | ◆基礎学力対策として、「反復練習と答え合わせの徹底」を挙げているが、漢字などの場合は、教員がきっちり見てあげるべきだと考える。(漢字については、各学年とも担任が丁寧に指導するようにしている。) ◆ICT機器は興味関心を持たせる上で有効なツール。しかし、じっくり読むことも重要であり、そういう時間を確保することが必要である。 |
| 2 | 徳 | 各学年・学級で、自分の気持ちを相手に伝えることのできる環境づくり(間違っても許し合える人間関係づくり)に取り組んでいる。しかし、日々、些細なトラブルや、自己肯定感や自己有用感の低さ故の問題行動、学校の決まり・学校生活上のルールなどが守られていない等の状況がある。 | 下記調査の該当項目 (別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆児童いじめアンケート | ①一人一人の気持ちに寄り添い、子供たちが仲間を大切にする学級経営に取り組む。また、日々のトラブルに対しては、双方の言い分を丁寧に聴き、互いに納得のいく指導を行う。 ②いじめアンケートを実施する。(年3回/学期に1回) ③毎月の欠席状況を把握し、SCなどとも連携し、定期的にケース会議を開催するなど、気になる児童への関わり方について話し合う。 | ①② 左記児童アンケート「学校が楽しいと感じる(A)」の割合が97%以上、左記調査(保護者)「子供は学校に行くのを楽しみにしている(B)」の割合が90%以上、アンケート実施後のいじめ解消率100% ③ 不登校を0に近づける、不登校気味児童の欠席日数を減少させる ◆左記調査(教員)の「徳」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上 | ①② A:1学期94.1%・2学期98.1% B:92.3% 解消率:100%達成 ③ スクールカウンセラー等と連携を密に、定期的に家庭訪問等も継続実施しているが、改善の兆候の見られない児童もあり、引き続き丁寧に対応していく必要がある。 ◆「2 豊かな心の育成」:90.9% | B | 日々、些細なトラブルや喧嘩はあるが、各学年・学級で、自分の気持ちを伝えることのできる環境づくり、人間関係づくりに取り組んでいる。しかし、総体的に自己肯定感や自己有用感の低さ故の問題行動なども見受けられるため、SCなどともより一層連携を密にし、家庭の協力も得ながら対応していく。その他、進んで接できる児童が増えてきたが、学校生活上の決まりやルールを守れないことが多く、生活指導部を中心に具体的な取組を検討し、全教職員共通理解のもと指導を徹底していく。 | ◆「不登校を0に近づける」という目標を掲げているように、子供が楽しく元気に登校できることが一番である。今後も丁寧に対応してもらいたい。他方、ICT機器の導入や様々な教育課題への対応を迫られる中、「～しなければならぬ(must)」的発想ではなく、「～しよう(let's)」、「～ませんか?(shall)」の発想で取り組み、先生方が疲弊しないようにしてもらいたい。 |
| 3 | 体 | 子供たちは概ね規則正しい生活が送れているが、高学年になるほど夜遅くまで起きている。運動能力に関しては、全国スポーツテスト(平成27年度からの5年間)では、AB層合計38.8%であるが、最近2年は上昇傾向にある。 | 下記調査の該当項目 (別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート | ①「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨する。(家庭と連携して基本的な生活習慣の定着を図る。) ②「学習と生活に関するアンケート」を実施する。(年3回/学期に1回) ③「朝トレ」をはじめ、季節に即した取組(長距離走など)を計画的に実施するとともに、運動場での外遊びを推奨する。 ④全国スポーツテストを徹底実施する。 | ①② 左記児童アンケート、「毎朝、7時までに起きていた(A)」の割合90%以上、「毎日、朝ご飯を食べた(B)」の割合が90%以上、「毎日、決められた時刻までに就寝した(C)」の割合が70%以上 ③ 左記調査(児童)「よく運動をして体をきたえていた(A)」、左記調査(保護者)「学校は運動習慣の定着、体力向上に取り組んでいる(B)」の4及び3評価合計が85%以上 ④ 全国スポーツテストで、A層の割合が10%以上、AB層の合計割合が35%以上、DE層30%未満 ◆左記調査(教員)の「体」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上 | ①② A:1学期86.8%・2学期88.3% B:1学期95.5%・2学期96.0% C:1学期65.0%・2学期64.5% ③ A:1学期88.0%・2学期81.0% B:93.1% ④ A層:20.3% AB層合計:48.9% DE層22.6% ◆「3 健やかな体の育成」:98.5% | A | 生活習慣に関しては、やや目標設定より低目の値となっているが、概ね良好な状態である。しかし、高学年になるにつれ夜遅くまで起きている。また、毎日一定数の遅刻者があり、児童会や委員会活動の取組と保護者への啓発に積極的に取り組む。 運動能力に関しては、全国スポーツテストの実施時期が遅かったことであるが、良好であった。引き続き、体育授業の充実、「朝の運動」の年間を通じた計画的な実施、外遊びの促進に努める。 | ◆携帯電話やスマホの所有率が全体で4割強(4~6年生で6割強)、SNS利用率は4~6年生で4割弱との調査結果となっているが、発達段階に即した低学年の頃からの情報リテラシー学習が重要である。また、個人持ちはしていないが、保護者の機器を使っている場合もあるため、もう少し詳細に調査する必要がある。併せて、保護者への啓発も重要である。 |
| 4 | コミスク | コミュニティ・スクール制度を十分に生かし切れていない。「みんなであつくるみんなのあらか」を合い言葉に、保護者・地域の理解促進を図るため、趣旨の説明はもとより、学校の取組や児童の様子を広く周知するとともに、「あらか応援団」を発足・有効活用し、意見交流の場(共有ミニ集会等)の開設等に努めていく必要がある。 | 下記調査の該当項目 (別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) | ①校長が毎月「校報・絆」を発行する。また、各学年ごとに毎月通信を発行する。 ②取組をマスコミを通じて広報(情報発信)する。 ③学校支援ボランティア等外部人材を活用した取組を推進する。 | ① 左記調査(教員)「保護者や地域への情報発信は十分できている(子供の様子を積極的に伝えた)(A)」、左記調査(保護者)「学校の取組や子供の様子がよく分かった(B)」の4及び3評価合計が90%以上 ② 地方紙等で取組が紹介される回数(年間5回以上) ③ 学校支援ボランティア活用件数(年間10件以上) ◆左記調査(教員)の「コミスク」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上 | ① A:90.9% B:97.7% ② 新聞9回・テレビ1回 【2月末現在】 ③ 年間21件(のべ53校時318人) 【2月末現在】 ◆「4 コミュニティ・スクールの推進」:87.9% | A | 家庭科での学習支援や児童の校外引率など「安小応援団」を機能させ、教育活動の充実にも努めた。また、学校・家庭・地域の熟議の場として「共有座談会」を開催し、コミュニティ・スクール推進の基礎を築いた。また、校報を見守り隊の方々にも地道に配布した。結果、地域の方々から児童や学校に対する気遣いの言葉をいただけるようになった。今後地域資源を生かした教育活動を推進する。 | ◆教育の本質には自分たちからは感想めいたことしか言えない。しかし、新しいことに積極的にチャレンジしているなという印象を持っている。校長が変わっても、考えや取組が継承される組織が重要であり、そのためには若い世代を育てることが重要。困っていることや協力してもらいたいことなどを、この会議の議題として出していれば、惜しみない協力する。 ◆学校の築年数が浅いということではなく、敷地内をはじめ学校周辺がきれいだという印象を持っている。 |